

# 1 総 説

## 1 沿 革

本町の歴史は、これまでに発掘された遺跡及び地形等から、町の北東部（旧豊岡村）の発見が最も古く、この地域からは縄文時代前期と推定される土器類が出土しており、杉戸町ではここが最古の人跡地であろうと思われる。

埼玉県史によると、奈良時代の東海・東山の二道を結ぶ道が「高野渡」を経て通じていたと推定している。また、鎌倉時代の鎌倉と奥州を結ぶ鎌倉街道もこの路線とほぼ同じ所を通過しており、上杉戸と高野の地は、古く奈良時代から江戸時代初期にかけてこの地方の中心地であった。

現在の杉戸町の市街地の形成は、徳川時代、元和 2 年に江戸の日本橋から奥州街道が作られ、杉戸宿として現在の愛宕神社付近にまちなみが形成されたことに始まる。

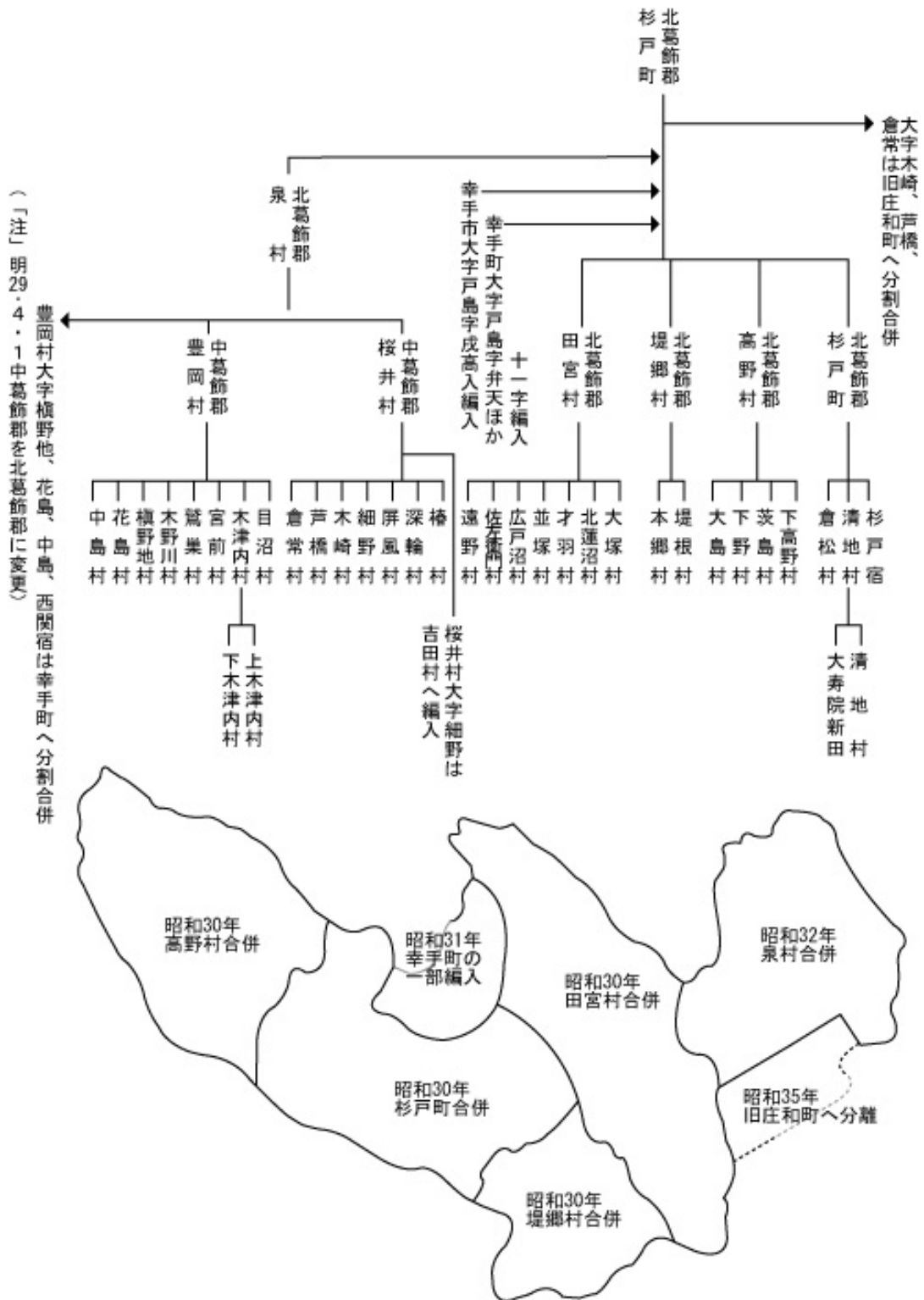
明治の初期には、現在の杉戸町は、集落単位で構成されるいくつもの郷村に分かれていたが、明治 11 年、郡区町村編成法の発付に伴い、翌、明治 12 年、杉戸宿に北葛飾郡・中葛飾郡の郡役所が置かれる。明治 22 年、杉戸宿・清地村・倉松村が合併して杉戸町となる。

町村合併等を経て、大正 15 年、郡制廃止まで郡役所の管下にあった。その後、昭和 30 年町村合併促進法に基づき、旧杉戸町、高野村、田宮村、堤郷村の 1 町 3 ヶ村が合併し、昭和 31 年幸手町の一部、翌 32 年泉村を合併、さらに、昭和 35 年泉村の一部を旧庄和町に分離して現在の杉戸町となる。



日光道中 杉戸宿 安藤広重画(埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵)

## 2 町の経過



### 3 位置と地勢

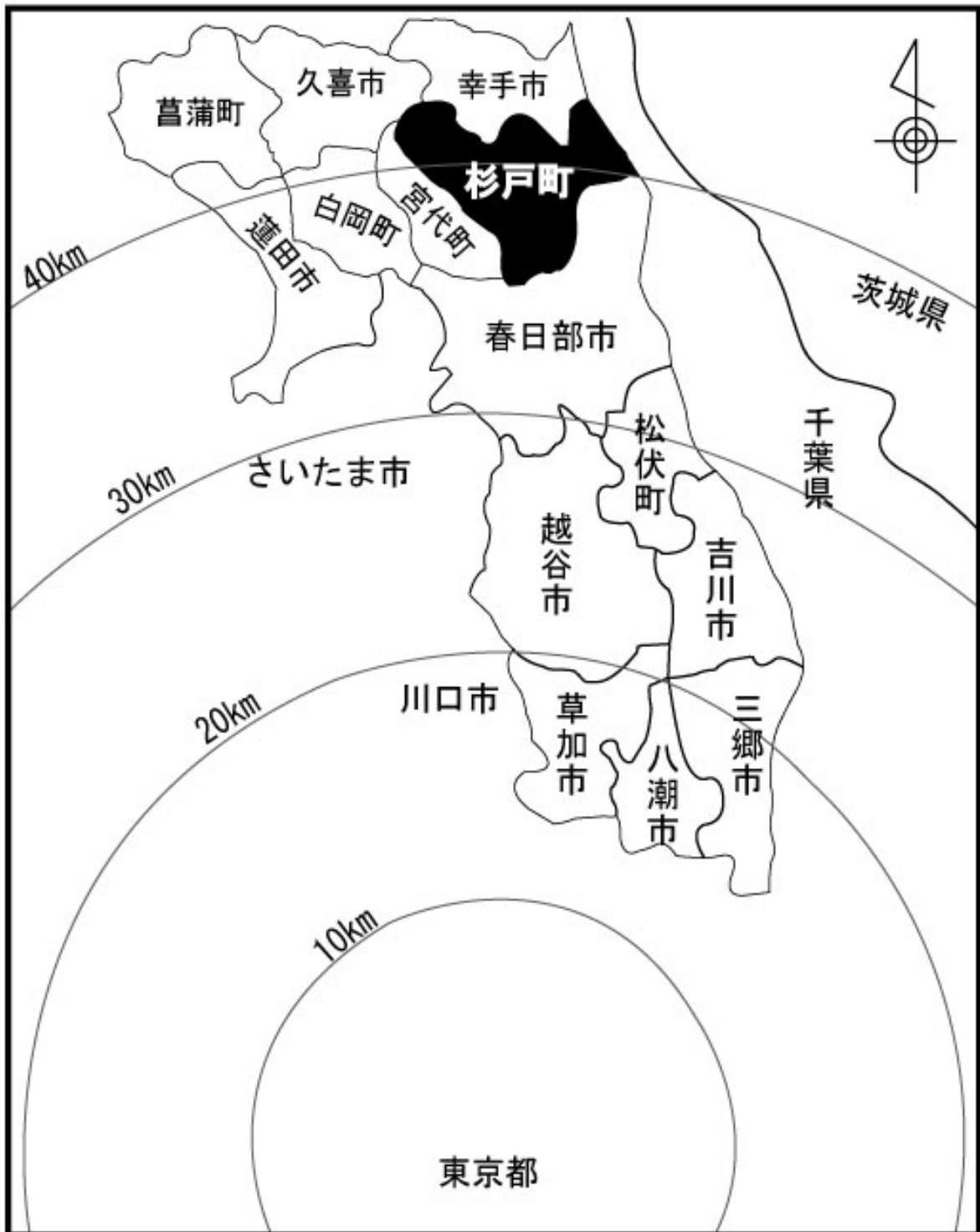
当町は、東経139度42分～139度48分、北緯36度00分～36度04分で埼玉県の東北端に位置し、東は江戸川を隔てて千葉県、南は春日部市、西は古利根川を境に宮代町と久喜市、北は幸手市に接している。

町全体の形は、鷺が羽を広げた形をしており、右の翼に当たる東部の一部が千葉県から続く洪積層で海拔18m前後の台地、その他の地域は旧渡良瀬川の氾濫原で海拔10m以下の平坦な地形となっている。また、東京都心より北方40km圏内にあり、町域の面積は30.00km<sup>2</sup>である。

経緯度		広さ (km)		海拔 (m)	面積 (km <sup>2</sup> )
東経	北緯	東西	南北		
139° 42'	36° 00'	約 10	約 7	最高 19.2	30.00
～	～			最低 4.7	
139° 48'	36° 04'				



位置図



平成 21 年 3 月現在

